

3

MARCH

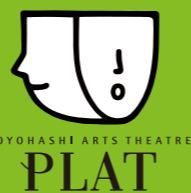
- 3 [金]—5 [日] ええじゃないかとよはし映画祭◎PLAT主ホールほか
- 4 [土]—5 [日] 市民と創造する演劇 とよはしの街の物語『はしっ子』
◎PLATアールスペース
- 12 [日] ビーピング・トム『ファーザー』◎PLAT主ホール
- 17 [金] 安藤忠雄講演会 さよなら名豊『街は人がつくる』◎PLAT主ホール
- 18 [土]—19 [日] マームとジブシー『てんとてんを、むすぶせん。からなる、立体。そのなかに、つまっている、いくつもの。ことなつた、世界。および、ひかりについて。』
◎PLATアールスペース
- 19 [日] 豊橋素人歌舞伎保存会 第31回定期公演◎PLAT主ホール
- 20 [月] SpiraL みんなが主役!!こどものHair Show◎PLAT主ホール
- 25 [土] 豊橋中央高等学校吹奏楽部 第19回定期演奏会◎PLAT主ホール
- 25 [土] 第3回 前川健生テノール・コンサート～春の三河に寄せて～◎PLATアールスペース
- 28 [火]—30 [木] 豊橋演劇鑑賞会 第259回例会 劇団文化座公演『旅立つ家族』
◎PLAT主ホール

4

APRIL

- 1 [土]—3 [月] KAJALLA#2『裸の王様』◎PLAT主ホール
- 1 [土] 近藤音楽教室発表会◎PLATアールスペース
- 2 [日] 家庭倫理の会 豊橋市家庭倫理講演会『つながる』◎PLATアールスペース
- 8 [土] 『白蟻の巣』◎PLAT主ホール
- 9 [日] 豊橋おやて劇場 第412回低学年部例会『はらっぱのおはなし』◎PLAT主ホール
- 13 [木] ヨグマダ相川圭子講演会◎PLATアールスペース
- 16 [日] 第6回菜の花歌まつり◎PLAT主ホール
- 22 [土] 春風亭小朝独演会 ◎PLAT主ホール
- 22 [土] 日本ウインドアンサンブル《桃太郎バンド》 アニュアルコンサート2017
◎PLATアールスペース
- 23 [日] 憲法漫談『これがアベさんの本音だ』◎PLATアールスペース
- 29 [土] 平成29年度東三河高等学校 演劇文化発表会 ◎PLAT主ホールほか
- 30 [日] プラット開館5年を祝うトーク&コンサート◎PLAT主ホール

表紙/「はしっ子」
撮影:宮田明里
企画・発行/公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン/味岡伸太郎+有限公司STAFF
平成29年2月発行 24号[隔月発行]



公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2017年3月-4月

vol. 24

CONTENTS

表紙「はしっ子」

2

INTERVIEW:1

「はしっ子」

糸井幸之介・深井順子が語る市民劇

4

TOPICS

「VADER」

ビーピング・トムは、どんなダンスカンパニーなのか

6

INTERVIEW:2

「白蟻の巣」

三島に挑む、谷賢一・平田満

8

INTERVIEW:3

「やんごとなき二人」

綾田・ベンガル芝居、10年ぶりに復活!

10

INFORMATION

PLAT主催公演情報

12

RECORD

五年目を迎えて

14

INTERVIEW:1

「はしっ子」

ESSAY

平田満のちよこつと エッセイ

「若い人に」

15

SUPPORT

TICKET CENTER

16

PLAT CALENDAR

糸井——大変贅沢な合宿をしました。とにかく豊橋のいろんな場所を歩く、行ってみる。その間に雑談しながら、ホテルでもどんな話にしようかと話し合う、で夜「おやすみなさい」という感じで。一週間弱いただきました。

木ノ下さんも豊橋は初めてだったので、豊橋にまつわる資料を凄く集めて、それを毎晩毎晩読んで。のんほいパーク(動植物公園と自然史博物館)、競輪場、二川の宿場、牛川人の遺跡や葦毛湿原。それと海にも行き、そこに老人ホームがあった。手筒花火も見に行きましたし、あとは競輪場近くの元・遊郭にも。

そういうのも、今日のテーマはこういう感じでここにいきましょうと、木ノ下さんが方針を立ててくれる。

深井——木ノ下さんから凄くお手紙をもらったの。

糸井——今作品の主題歌に対しての手紙です。

深井——木ノ下さんが一行一行、コメントを残して。その愛情というか、素晴らしいよね。

糸井——ゼロから作って、作り終わってから「こうすればよかった」というのは簡単ですが、それを実際やりながら、客観的に思うのも大事なのですが、なかなかそんなこと出来るわけもない。たやすくやろうとするとつまらないものになってしまう。だけど木ノ下さんは、そこも抑えてくれるし、でもそういうことを気にしすぎると良さがなくなってしまうという、両面をしっかりと見ていただける。

深井——無駄なことがなくていいなと思います。シンプルに面白いかどうかに入っていくから。

——本番へ向けて抱負などをお願いします。

糸井——とにかく台本を頑張って書かないといけない。もうビクビクしているので、他のことは、その後考えます。

深井——私は、市民の人たちと演るけど、見た人が一つの劇団に見えるように演りたいな。

糸井——凄い、素晴らしい。

深井——どうでないとつまらない。私たちがもてなしてもしかたがないし。もてなされてもしかたがない。面白いことを、一緒に演りたいな。

14頁のドラマトックル・木ノ下裕一氏の寄稿もお読みください。

糸井幸之介[いとい・ゆきのすけ]／劇作家・演出家・音楽家。1977年東京生まれ。2004年に女優の深井順子により旗揚げされたFUKAIPRODUCE羽衣の全作品で作・演出・音楽・美術を手掛ける。全編の7割ほどを演者が歌って踊る、芝居と音楽を融合した独自の作風を“妙〜ジカル”と称し、唯一無二の詩的作品世界と、耳に残るオリジナル楽曲で高い評価を得ている。世田谷区芸術アワード“飛翔”08年度舞台芸術部門受賞。第14回公演『耳のトンネル』にてCoRich舞台芸術まつり! 2012春グランプリ受賞。14年より多摩美術大学にて非常勤講師を務める。

深井順子[ふかい・じゅんこ]／俳優・FUKAIPRODUCE羽衣主宰。1977年東京生まれ。96年から99年まで劇団唐組に在籍。2004年に、糸井幸之介の生み出す唯一無二の“妙〜ジカル”を上演するための団体、FUKAIPRODUCE羽衣を設立。妖艶かつ混沌とした詩的作品世界、韻を踏んだ歌詩と耳に残るメロディで高い評価を得るオリジナル楽曲、圧倒的熱量を持って放射される演者のパフォーマンスが特徴。設立以降、全公演に出演、及びプロデュースを行う。08年に世田谷区芸術アワード“飛翔”を受賞。12年『耳のトンネル』にてCoRich舞台芸術まつり! 2012春グランプリを受賞。同年、『浴槽船』にて、クォータースターコンテスト(演劇ぶっく・エントレ共同主催の演劇動画コンテスト)グランプリ受賞。演劇公演のみならず09年からLIVE活動を開始。また近年は、中高生向けのワークショップの講師や、野田地図『エッグ』『MIWA』に出演するなど、活動の範囲を広げている。14年より多摩美術大学にて非常勤講師を務める。

見た人が一つの劇団に見えるような舞台を市民の人たちと演りたいですね。

糸井幸之介・深井順子が語る市民劇

作・演出・音楽

出演・演出補

——第一次稽古(1/12～1/15の4日間)がスタートしました。その印象からお願いします。

深井——元気だなという印象があります。東京の人に比べると活気があるような感じがします。

糸井——出演者の中にはこれまでに市民劇に参加してきた方が多く「初めまして」というムードではないというのもあるかもしれませんね。

僕は宮崎で市民劇を演ったことがあります。宮崎も、豊橋もそうですが、昼間仕事をしていて、その後に稽古することを自ら選んだ人たちだから、エネルギーが基本的にあるのでしょね。普通に考えたら仕事だけで、大変じゃないですか。それから更にだから、やはり好奇心とかエネルギーの多い人が多いのかもしれない。

——深井さんから見て、今回の音楽や台本は、お二人が所属の「FUKAIPRODUCE羽衣」でのものと違いはありますか。

深井——たぶん、市民の方たちに当てて書く方が世界をシンプルにしているのしょうから、少し羨ましいなと思います。羽衣だとシンプルなシーンをなかなか書いてくれない。もう少し、グニョグニョとした複雑で不穏な感じが多い。「あぁいいな。あぁいう役、演りたいな」というシーンが多いなと思う。

糸井——メロディーも、いつもに比べて少し恥ずかしいなと思って、そのぐらいの方がいいかなと思ったり、羽衣でも、ポップな曲をもっと照れることなくやればいいんだと、逆に思いもしています。

深井——市民劇で演ったことによって、もしかしたらそれが羽衣に返ってくるかもしれない。

——音楽は、人を見て作られるのですか。

それとも街を見て作られるのですか。

糸井——色々な時がありますが、意識して論理的に踏むというより、この人たちが出演するとしたらという、漠然とですがイメージが当然あります。今作品の主題歌でしたら駅前の感じはやはりありますし、人が決まっている場合は、やはり意識しますね。

深井——羽衣と違うなと思うのは、真ん中に家族がいる。そこが軸で、珍しくストーリーがある妙〜ジカル(妙なミュージカル)だから、見ているお客さんはすんなり入れる気がする。主人公のはしっ子さんが物語を動かして、そこにお父さんお母さんがいて、だんだん進んで、また家族や街のシーンに戻る。たぶん初めて見るお客さんでも、置いていかれないから、最初としてはいいかなという気がしました。

羽衣は同じ年代の人たちが多いので、じゃあ「お父さんお母さんは、どうするの」となってしまう。市民劇の場合だと、10代から60代までの人がいて、すんなりと家族をつくれるから、物語が生まれやすいのかなと思う。糸井——振付を担当する木皮成くんが、出演者に振り付けて踊っているのを見ると、なんかいろんな顔の人がいるなという感じです。

——ドラマトックルを担当する木ノ下裕一さんとはどういった作業をされたのですか。

2017年3月4日[土]・5日[日]14:30開演

作・演出・音楽＝糸井幸之介

ドラマトックル＝木ノ下裕一

振付＝木皮 成

出演・演出補＝深井順子

出演＝オーディションで選ばれた一般市民

会場＝PLATアールスペース

市民と創造する演劇 とよはしの街の物語

「はしっ子」

ピーピング・トムとは？

ベルギーという小国に生まれる新しいダンスには、いつも驚かされてきた。ローザスのアンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル、ウルティマ・ヴェスのヴィム・ヴァンデケイブス、ニードカンパニーのヤン・ロワース、そしてアラン・プラテルやヤン・ファーブルなどなど。これらのアーティストたちはいずれも、伝統的なテクニックや既成のジャンルに寄りかかることがない。そして何ものにも囚われない、自由な発想と表現スタイルで魅了し続ける。

今世紀に入ってからのベルギーでずっと注目してきたのは、ピーピング・トムである。「覗き屋(ピーピング)トム」などという怪しげな名称に感あされてはいけない。新作が誕生するたびに、ヨーロッパ中のダンス界から熱い視線を浴びるのは、今やこのカンパニーなのだ。

互いに脈絡のない演劇のようなシーンが次から次に展開する「タンツテアター」という方法論で、世界中に影響を与えたのが、ドイツの故ビナ・パウシュが主宰したヴッパータール舞踊団である。ベルギーに1984年に誕生したアラン・プラテル・パレエ団(正確な名称はLes Ballets C de la B)は、ピナの影響を受けつつ音楽と演劇とダンスを融合させながら深いテーマ性を前面に出し、ピナ以降のもっとも重要な舞踊団と言われていた。その舞踊団の中心メンバーとして活動していたガブリエラ・カリーソとフランク・シャルティエが意気投合して、1999年12月に開始したのがピーピング・トムである。言ってみればピナとプラテルの血筋を引き継ぎながら、21世紀に独自の路線を歩む少数精鋭のグループなのだ(ピナとプラテルは大人数のスペクタクル性に富む舞台を特色にしていた)。

これまでの来日3作品について

ピーピング・トムがヨーロッパのダンスシーンで注目されることになるのは、『Le Jardin (庭)』(2002年)、『Le Salon (サロン)』(2004年)、『Le Sous-sol / 土の下』(2007年)の三部作である。

三番目の『Le Sous-sol / 土の下』をもって、ピーピング・トムの初来日を実現したのが2009年。これは、日本のダンス界に見たこともないような異色の舞台を印象づけた。驚かされたのは、舞台一面をおおう土砂。この作品の設定はタイトルにもあるとおり、地面の下である。マンガかSFならそんな設定もあるだろうが、ダンスでは聞いたことがない。登場するのはすべて死者たちである。構成がどうこうとかいうよりも、異様なまでのイメージの強度。存在の震えるような鼓動…。初めて見る彼らの創造姿勢に強い衝撃を受けた。

二度目の来日作品『ヴァンデンブランデン通り32番地』(2009年制作、2010年来日)も、前作に劣らない極端な舞台設定に目を奪われる。なにしろ床は一面氷雪におおわれていて、トレーラーハウスが2台置かれているという、殺伐とした光景なのだ。この着想を得たのは、意外なことに今村昌平監督の名作『楯山節考』であったという。今村作品は信州山奥の寒村が舞台だが、こ

らは現代の西ヨーロッパのどこかの街のはずれのようだ。ダンサーたちはトレーラーハウスに住み着いている住人たちという役回り、柔軟な体を縦横無尽に使いこなす。ブレイクダンスのような激しい身体。そこに浮かび上がるのは、性と愛、格差のなかでの貧困、移民労働者、孤立などである。成熟したヨーロッパ社会の底辺の光景が心に残る。

三度目の来日作品『A Louer / フォー・レント』(2011年制作、2014年来日)は、これまでの作風とは大きく異なる。タイトルが「貸し出し中」とか「賃貸物件」を意味するように、部屋の家具には白い布が掛けられている。部屋はすでにある役割を終えて、今は新しい入居者を迎えるための暫定期間であるようだ。としてこ

石井達朗[いしいたつろう] / 舞踊評論家。ニューヨーク大学(NYU)演劇科ブライト研究員・同パフォーマンス研究科ACLS研究員などを経て慶応大学名誉教授。2017年4月より愛知県立芸術大学客員教授。関心領域として、サーカス、アジアの身体文化、ポスト・モダンダンス、ジェンダー/セクシュアリティから見るパフォーマンス論。著書に『身体の臨界点』『男装論』『ポリセクシュアル・ラヴ』『アクロバットとダンス』『サーカスのフィルモロジー』『異装のセクシュアリティ』ほか。

TOPICS

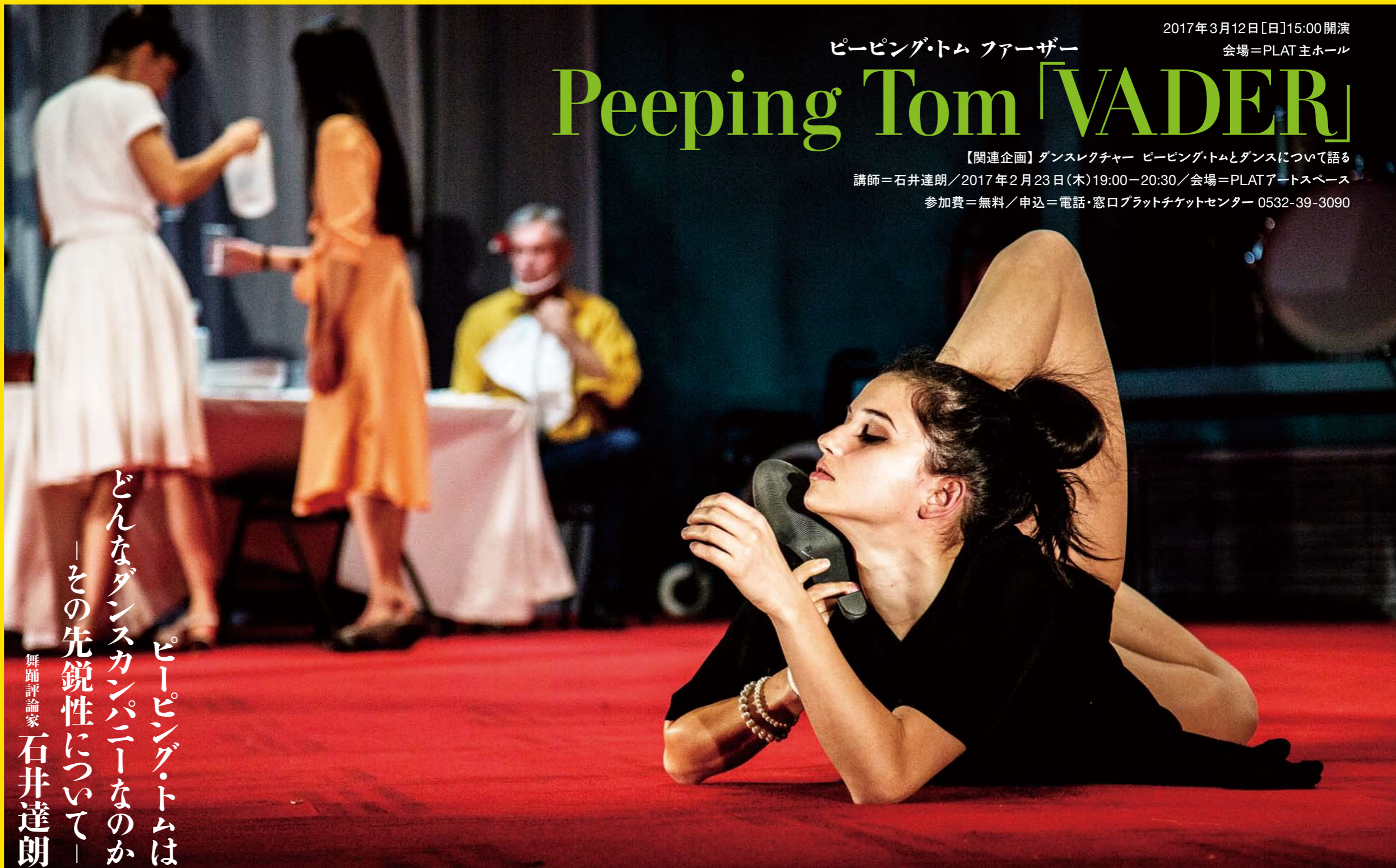
ここに立ち現れる人物たちも、人生のある役割をすでに終えているかのように見える。過去の栄光も栄華も過ぎ、空虚感がただよう。記憶や妄想らしき光景が、現実と交錯しながらつぎつぎに展開する。舞台が進行するにつれ、この登場人物たちの存在そのものが、まさに「フォー・レント」なのではないかと思えてくるのだ。

今回の新作『ファーザー』

3年ぶりの来日作品となる『ファーザー』は、これまでのピーピング・トムの方向性と方法論がさらに深化した秀作だ。それを裏付けるように、ダンス作品に送られる栄誉ある賞を、すでにくつも受賞している。舞台はヨーロッパのどこかの街のはずれに、忘れられたように佇む

老人ホームである。少子高齢化が話題になり、高齢者の医療や介護や施設が政治課題である日本から見ても他人ごとではない。果たしてこれがどんなダンス作品になりうるのか。独創的な時空につつまれた、他のどんなカンパニーもつくりえない舞台である。

現代が抱える社会のひずみに投げかける眼差しは、厳しさと優しさ、ユーモアとウィットが交錯している。そしてこれが演劇のような理屈っぽさでなく、圧倒的な身体性で表現されてゆく。観客は、思わず笑ったりしているうちに、言葉以前の衝動が、そして言葉を越えた感情が、直球のように舞台から飛んできて突然胸を打たれるにちがいない。地元豊橋で選ばれたシニアキャストたちが、本作をさらに濃いものにするはずである。



2017年3月12日[日]15:00開演

会場=PLAT主ホール

ピーピング・トム ファーザー

Peeping Tom 「VADER」

【関連企画】ダンスレクチャー ピーピング・トムとダンスについて語る

講師=石井達朗/2017年2月23日(木)19:00-20:30/会場=PLATアールスペース

参加費=無料/申込=電話・窓口プラットチケットセンター 0532-39-3090

どんなダンスカンパニーなのか
—その先鋭性について—
舞踊評論家 石井達朗

葉にしても人間関係にしてもとても濃密だから、キャラクターが合っていればいいわけではない。演技術や、その人の舞台での佇まいをきちんと見たいうえで、かなり慎重にキャスティングしたので時間はかかりましたね。

平田さんと安蘭さんは夫婦なのに、ほとんど会話を交わさない。二人は完全に破たんした形ばかりの夫婦なのでしょうね。

平田——喋らないどころか、一緒にいる時間は5分か10分。あとは全部すれ違い。でも相手についてかなり喋るから、無関心ではないし、そこが面白いですよ。

中島——戯曲を読むと音楽が聞こえてくるのですが、音楽はどのように考えていますか。

谷——今まさにいろいろと聞いている最中です。音響家任せにせず、とにかくサンバ系の音楽を聞き続けています。調べていくとサンバの中には無数の体系がありしかもその音楽が生まれた集落とか、民族の精神性や当時の生活にも結びついています。抵抗の音楽でもあるし、生の喜びの音楽でもあるし、宗教の音楽でもある。と思うと、とても一括りにサンバとは言えないですね。

そのパワフルさに、三島も影響を受けたのだろーと思ひます。映像資料も交えながら見ているのですが、ブラジル人はサンバが体の中に常にあり、踊れない人はいない。いつでも音楽が傍らあることが、ドキュメンタリーを見ていると強く感じます。

中島——どうやって迷宮ラビランスに導いていただけるのか、とても楽しみです。

谷——みんなで紐解いていく作業がこれから始まります。稽古が始まったばかりでクエスチョンな部分は残っていますが、1ヶ月半かけて解きほぐせば、直感的に見えるお芝居になると思います。

出演者は僕にとって全員初めましての人たちです。これから共通言語や理解が増えていくという段階なので、今、僕の頭の中にある演出上の野心は、これからまたどんどん変化するだろうし、それに対応出来る柔軟性を持っていないと、どこかで破たんするだろうなとも思っています。いい意味で、まだどっちに転ぶか分からないので、僕も楽しみです。

中島——そういうチャレンジ精神旺盛な谷さんと怖さも内に秘めた平田さん、期待しています。

ブラジル、リンスの珈琲農園を舞台に、

二組の夫婦の奇妙な三角関係の果てに待つのは…

三島に挑む、谷賢一・平田満

聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場ROCKYシアタープロデューサー

演出

出演

谷 賢一 [たに・けんいち] / 1982年生まれ。DULL-COLORED POP 主宰。明治大学演劇学専攻、ならびにイギリス・University of Kent at Canterbury, Theatre and Drama Studyにて演劇学を学んだ後、劇団を旗揚げ。2013年には『最後の精神分析』の翻訳・演出で第6回小田島雄志・翻訳戯曲賞、ならびに文化庁芸術祭優秀賞を受賞。近年では海外演出家とのコラボレーション作品も多く、デヴィッド・ルヴォー、シデ・ラルビ・シエルカウイ、フィリップ・ドックフレラの作品に、翻訳・脚本・演出補などで参加している。

平田 満 [ひらた・みつる] / 1953年生まれ、豊橋市出身。「つかこうへい事務所」旗揚げに参加。映画『蒲田行進曲』で日本アカデミー賞最優秀男優賞など受賞。『ART』『こんには、母さん』で読売演劇大賞最優秀男優賞、『失望のむこうがわ』『海をゆく者』で紀伊國屋演劇賞個人賞受賞。最近の主な舞台に、『熱海殺人事件』『星回帰線』など。2006年よりアル☆カンパニーを設立。時代を担う幅広い作家・演出家と様々な試みに取り組んでいる。

元宝塚歌劇団星組の安蘭けい、
圧倒的な存在感を放つ平田満ら実力派俳優陣が贈る、
三島由紀夫の長編戯曲。

「白蟻の巣」

2017年4月8日[土]13:00 開演

作＝三島由紀夫

演出＝谷 賢一

出演＝安蘭けい、平田 満、村川絵梨、石田佳央、熊坂理恵子、半海一晃

会場＝PLAT主ホール



中島——谷さんは三島由紀夫さんの作品に元々興味があったのですか。

谷——高校生のときに一通りは『仮面の告白』『潮騒』『金閣寺』、そんな順番で読んで、あまりにも文章がうまいので戦慄したのを覚えています。

この本に限らず、三島の作品はどれを読んでも、背筋がぞつとすることが多い気がします。『白蟻の巣』でいえば、「寛容さが伝染する」という表現がありますが、あの感じは、ホントに恐ろしいものだと思いますね。

平田——現代は、あまりにも不寛容だから、務めて寛容でいなければと思います。当時は寛容という名のもと、いろんなものを歪めていたのではないのでしょうか。

谷——劇中で、新旧の「血」についての表現が折に触れて出てきますよね。それまでのエスタブリッシュメントとしてあった、一つの社会基盤が破壊され、生まれ変わっていく瞬間を描こうとしているんでしょうね。

中島——今、三島の作品を演じることにについて平田さんは、どのように思っていますか。

平田——僕はアングラから出発しているので、三島の作品はハイソサエティな感じと、文学的で、登場人物も華族とか貴族が多いので、僕にそんなキャスティングをする人はいないだろうなと漠然と思っていました。図らずも、今まで全然当たらずにきたので、この時期を逸したら三島の作品を演じることはないだろうなと思いました。

谷——平田さんは僕が華族なんて、とおっしゃっていますが、気品もあるし、逆に皇族っぽい振る舞いとか貴族のもったいぶった感じがほしいわけではないんです。この戯曲の中で描かれている刈屋さんはなんとも掴みどころのない、妖怪のぬらりひょんのような、でも優しい寛大な人と思われていて、でも実は一癖、二癖、三癖もありそうな恐ろしさがありますよね。隣にして言うのもあれですけど、平田さんにも怖い感じがあるじゃないですか。

平田——そうですね？

谷——いろんな役でいろんな顔を見せてくれる。それこそ気の良さそうな人を演っている時もあれば、この間三島の映画を見ていたら、チンピラの役で出てらした。いろんな表情がぱっぱぱつと出てくる感じは、刈屋さんにとっても似合うと思うんです。

平田——いろんな役をいただけるというのは嬉しいですね。同じような役を演ると、煮詰まってくると言いますか、新鮮さを失う怖さもあるので。タイプの違う役を演じることで、考えること、見えてくるものもある。そうすると、また次に同じような役が来ても、新鮮な気持ちで出来るんです。農業で言う、いわゆる「輪作が出来ない」。ほうれん草ばかり作っていると駄目になってくるんです。アグが強いですよ。

中島——そういう意味では安蘭けいさんも、ミステリアスな女優さんですよ。

谷——キャスティングの時点で戯曲をある程度掘り下げて、分かっているつもりでいたことも、実際俳優さんを当てはめ、肉体を通して考えようとなると、不整理だった部分が出てきます。もちろん簡単な本ではないし、言

INTERVIEW:2

おかしなホームレスふたりが繰り広げる奇妙なドラマ

「やんごとなき二人」

2017年5月10日[水]14:00開演 / 19:00開演

会員先行=2017年2月19日(日)・一般発売=3月4日(土)

作=安倍照雄

演出=平山秀幸

出演=綾田俊樹、ベンガルほか

会場=PLATアートスペース



中島——タイトルが『やんごとなき二人』ですが、元々は『死ぬのか死なないのか』ですよね。

ベンガル——それがいいのではと思って、「どう?」と言ったら演出の平山監督が『『やんごとなき二人』の方がいいんじゃないの』と。元々、脚本の安倍さんが第一稿を、仮に『やんごとなき二人』で送ってきていたのです。『『死ぬのか死なないのか』ではハムレットみたいに見えるから、『やんごとなき二人』の方がいいんじゃないの、アンタら二人には』と、言うので。

中島——綾田さんを見ていると、やんごとなきお公家さんに見えますよ。

綾田——昔、冗談で「僕、綾田は嘘の名前で本当は綾小路って言うんです」と言ったら本気にした人がいて、それでホントの綾小路さんに紹介されて、「嘘だった」と言えなくて困ったことがあります。

中島——どういった感じで稽古していくのですか。チラシには二人、ほかとありますが、出演は何人ですか。

ベンガル——ほかは、うちの劇団員の女の子ですね。だから3人ですね。僕と綾田の企画では、女優さんを一人外から呼んでます。劇団員というのは今回は初めてです。

中島——ベンガルさんは、セリフ覚えが早いんですね。長年の経験でコツみたいなのはあるのですか。

ベンガル——ホントに早いですよね。東京乾電池創立の3人の中ではたぶん僕が一番早いです。やはり、繰り返し読みしかないですね。繰り返し読んで、とにかく流れを。流れが分かってくると、結構セリフが入りやすいのですよ。

綾田——僕もそんな遅くないですよ。普通です。ただ、大体は覚えるのですが、「てにをは」は、ちょっといい加減だったりします。大きな流れはすぐ覚えますけどね。

ベンガル——少しリアルな会話とか、背景がある会話は、心情が分かっているから覚えやすいですね。いわゆるベケットみたいな、ただ覚えるしかないという時はなかなか入らないですね。

綾田——今回は割と会話になっていますから、覚えやすそうではありますね。

中島——今回のホームレスをテーマにというのは、お二人から出た話なのですか。

綾田——ペンちゃんが最初ですね。

ベンガル——最初、僕がホームレスの話はいろんな人がいるから面白いかなと思って。

中島——ホームレスの方は、海外だと圧倒的に犬を連れてくるのですが。

ベンガル——ありますね。

綾田——いや、あの、今回は…。

中島——猫?

綾田——いやいや、まあそれを言うとネタバレになってしまうので。

中島——では聞かないことにします。平山監督の演出はどのような経緯ですか。

ベンガル——平山さんは僕らが渋谷ジャン・ジャンでやっていた頃から、追っかけなんて言ったらなんだけど、僕らのことを夢中で見ててくれたのです。もちろんいわゆる追っかけではないのだけど。うれしいですね、監督がそういう言い方をしてくれたから。あの頃は全席自由席だから、とにかく早い時間から並んでくれてね、今になってそういう話を聞くと、申し訳ないなと思ったりね。それでまあ映画でも時々、綾田の方はしょっちゅう…。

綾田——ちよこちよこした役でよく出ていましたね。

ベンガル——僕は3回だけど、前からそういう話はあって。では一度芝居の演出をと。

綾田——その時に「若いのでいい作家がいるから」と監督が連れてきた人が脚本の安倍さんです。ホントに出だしの若い人かと思ったらもうバリバリ。『てれすこ』という平山監督作品、あれも彼でした。あと吉永小百合さんの『ふしぎな岬の物語』、『AT HOME』という竹野内豊くんの、あの映画も安倍さんですね。監督が気に入っていて「コイツのセリフ面白いぞ」と。

平山さんは、映画監督だけど役者の芝居の方をまず決めてから、画像を決めていくという演出をします。画がまずという人が多いではないですか。しかし、やはり役者の芝居をとというから、芝居の演出もきつとやっってもらえると思う。

ベンガル——余計なカットは取らないですね。今の若い監督はどこを撮っているんだよというのがよくあるけど。平山監督にはないですね。

中島——今度のお二人の芝居の衣装はどなたですか。臭うような衣装なのでしょうが。

ベンガル——監督が推薦の方です。「衣装はちょっと待ってくれ。若いので凄いいのがある」のだと。僕が先輩ホームレスですから、僕のはかなり汚いのではないかという気はするのですが。

中島——実際のホームレスを、観察したりしたのですか。

綾田——結構ね。興味があるから見ていたり、あとテレビのドキュメンタリーとかは見るようにしています。それと、ホームレスの映画を一回、三池崇史監督の『金融破滅ニッポン 桃源郷の人々』で、長老みたいな役を演ったのです。その時もいろいろ勉強しました。やはりホームレスは面白いですよ。

中島——お二人の生き様ぶりが今回の役どころにピッタリと思うので、楽しみにしております。

やんごとなき二人の生き様ぶりが楽しみを
綾田・ベンガル芝居、10年ぶりに復活!
聞き手 中島晴美 穂の国とよし 芸術劇場ROCK シニアプロデューサー

INTERVIEW:3

綾田俊樹[あやた・としき] / 1950年生まれ、奈良県出身。自由劇場を経て、76年に柄本明、ベンガルらと共に劇団東京乾電池を結成。最近の活動はテレビは『ごちそうさん』(NHK)『真田丸』(NHK)など。映画は『エヴェレスト 神々の山嶺』『深夜食堂』など。舞台は『ヘンリー四世』『竜馬の妻とその夫と愛人』など。2015年には『とりあえず、お父さん』(銀河劇場)を演出し、16年劇団東京乾電池が40周年を迎えた。3月『マリウス』(日生劇場)に出演する。

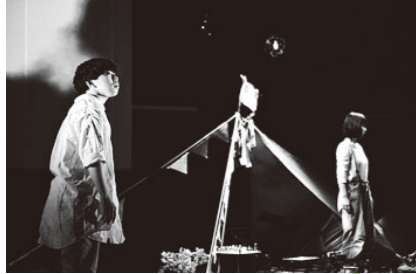
ベンガル[べんがる] / 1951年生まれ、東京都出身。自由劇場を経て、76年に柄本明、綾田俊樹らと共に劇団東京乾電池を結成。大林宣彦監督の映画『北京的西瓜』(89)では主演した。最近の活動はテレビでは『とんび』(TBS)『軍師官兵衛』(NHK)など。映画は『みなさん、さようなら』『奇跡のリンゴ』『0.5ミリ』『さらばあぶない刑事』など。舞台は『さくら橋』『鎧塚氏、振り下ろす』など。16年に劇団東京乾電池が結成40周年を迎えた。

INFORMATION

PLAT主催公演情報

マームとジブシー

「てんとてんを、むすぶせん。からなる、立体。そのなかに、つまっている、いくつもの。ことになった、世界。および、ひかりについて。」



「白蟻の巣」



左より 安蘭けい、平田 満

とよはしアートフェスティバル2017
大道芸inとよはし



アマヤドリ「非常の階段」



「マリアの首―幻に長崎を想う曲―」



左より 伊勢佳世、鈴木 杏、峯村リエ

風琴工房「Penalty killing remix ver.」



3/4 [土]・3/5 [日] 14:30 開演
市民と創造する演劇 とよはしの街の物語
「はしっ子」

好評販売中

●作・演出・音楽=糸井幸之介●ドラマトルク=木ノ下裕一●出演=オーディションで選ばれた一般市民●会場=PLATアートスペース●料金=[全席指定]一般2,000円/ユース(24歳以下)1,000円/こども(高校生以下)500円

3/12 [日] 15:00 開演
ピーピング・トム「ファーザー」

好評販売中

●構成・演出=フランク・シャルティエ●出演=ピーピング・トム、公募によるシニアキャスト●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]一般4,000円/24歳以下2,000円/高校生以下1,000円

3/18 [土] 14:30 開演/19:00 開演
3/19 [日] 14:30 開演
PLAT小劇場シリーズ
マームとジブシー

「てんとてんを、むすぶせん。からなる、立体。そのなかに、つまっている、いくつもの。ことになった、世界。および、ひかりについて。」

好評販売中

2001年、10年後の2011年、そして今を往還しながら、パーソナルな記憶と世界の歴史的な記憶を平等に扱うマームとジブシーの独特な手法は、海外でも大きな評価を受けました。国内では上演機会の少ない本作の再演です。●作・演出=藤田貴大●衣装=suzuki takayuki●出演=荻原 綾、尾野島慎太郎、成田亜佑美、波佐谷聡、沼田実子、吉田聡子●会場=PLATアートスペース●料金=[全席指定]一般3,000円ほか

4/1 [土] 19:00 開演
4/2 [日] 13:00 開演/18:00 開演
4/3 [月] 19:00 開演
KAJALLA#2「裸の王様」

●一般発売=2月18日(土)●作・演出=小林賢太郎●出演=久ヶ沢徹、竹井亮介、菅原永二、辻本耕志、小林賢太郎●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席7,500円/A席6,500円ほか※お一人様1申込につき4枚までの枚数制限有り。

4/8 [土] 13:00 開演

「白蟻の巣」

好評販売中

●作=三島由紀夫●演出=谷 賢一●出演=安蘭けい、平田 満、村川絵梨、石田佳央、熊坂理恵子、半海一晃●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席6,000円/A席4,500円/B席3,000円ほか●『マリアの首』とのセット券あり(S席10,500円・枚数限定)

【関連企画】

谷 賢一ワークショップ

4月1日(土)13:00~17:00

※詳細は決まり次第、劇場ホームページなどで告知いたします。

4/22 [土] 13:30 開演
春風亭小朝独演会

好評販売中

ドラマ出演や音楽界とのコラボ、プロデュースなど幅広い分野でその才気を発揮している小朝師匠が今年もプラットに登場!●出演=春風亭小朝●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]一般=3,500円/ユース(24歳以下)2,500円

4/30 [日] 14:00 開演

プラット開館5年を祝うトーク&コンサート

プラットは今年で開館5年目となります。これまで支えていただいた市民の皆様へ感謝の意を込めて、芸術文化アドバイザーの平田満によるトークや、プラットに縁のある若手演奏家らによるミニコンサートをお届けします。●出演=平田 満ほか●会場=PLAT主ホール●料金=無料(要入場整理券。詳細は決まり次第、劇場ホームページなどで告知いたします。)

5/4 [木・祝]・5/5 [金・祝]
とよはしアートフェスティバル2017
大道芸inとよはし

ゴールデンウィークは豊橋に大道芸がやってくる!世界で活躍する大道芸人たちが市内各所を劇場に大変身させます。●会場=PLAT、豊橋駅南口駅前広場、広小路通りほか●料金=無料

【ボランティアスタッフ大募集】

『大道芸inとよはし』と一緒に盛り上げてくれる仲間を募集します!

●日程=5月4日(木・祝)・5日(金・祝)●業務時間=10:00~18:00を予定●参加条件=18歳以上で事前説明会に参加できる方●事前説明会=4月14日(金)・15日(土)※詳細は決まり次第、劇場ホームページなどで告知いたします。

5/10 [水] 14:00 開演/19:00 開演

PLAT小劇場シリーズ

綾田・ベンガル芝居

「やんどとなき二人」

●会員先行=2月19日(日)●一般発売=3月4日(土)●作=安倍照雄●演出=平山秀幸●出演=綾田俊樹、ベンガルほか●会場=PLATアートスペース●料金=[全席指定]一般4,000円ほか

チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

- 劇場窓口・電話0532-39-3090[休館日を除く10:00~19:00]
- オンライン<http://toyohashi-at.jp>[24時間受付・要事前登録]

U24・高校生以下割引ご案内 ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。

- 料金=U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:一律1,000円
- 購入方法=各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
- その他=本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。



「ハムレット」

5/24 [水]・5/25 [木] 18:30 開演
5/26 [金] 13:00 開演
「ハムレット」

シェイクスピア四大悲劇の中でも最も有名な『ハムレット』を、世界中でヒットしたミュージカル『レ・ミゼラブル』オリジナル版で名を轟かせたジョン・ケアードが演出。ハムレット役にはジョン・ケアードと磐石のタッグを組んできた内野聖陽が満を持して挑戦します。ほか豪華キャストにも注目です。●会員先行=2月25日(土)●一般発売=3月11日(土)●作=ウィリアム・シェイクスピア●上演台本=ジョン・ケアード、今井麻緒子(松岡和子訳に基づく)●演出=ジョン・ケアード●音楽・演奏=藤原道山●出演=内野聖陽、貫地谷しほり、北村有起哉、加藤和樹、浅野ゆう子、國村 隼ほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席=9,000円/ステージサイドシート=8,500円/A席=7,000円/B席=5,000円ほか※発売日初日は、お一人様1申込につき4枚までの枚数制限有り。

6/2 [金] 19:00 開演・**6/3 [土]** 14:30 開演
PLAT小劇場シリーズ
アマヤドリ
「非常の階段」

高校生と創る演劇「穂の国の『転校生』」で演出を務めた広田淳一率いるアマヤドリがプラットに初登場!太宰治の『斜陽』をモチーフに、若年層の貧困、格差社会、家族の在り方など、現代日本が抱える様々な事象を多層的に描きます。●会員先行=4月15日(土)●一般発売=4月29日(土・祝)●作・演出=広田淳一●出演=アマヤドリほか●会場=PLATアートスペース●料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]一般3,000円ほか●風琴工房『Penalty killing remix ver.』とのセット券(一般5,000円・枚数限定)あり

6/10 [土] 13:00 開演
「マリアの首―幻に長崎を想う曲―」

好評販売中

終戦後の長崎で、三人の女性の生きざまを軸に、神との対話と平和への祈りを描き、第6回岸田演劇賞を受賞した戯曲を、話題の女優陣でお届けします。●作=田中千禾夫●演出=小川絵梨子●出演=鈴木杏、伊勢佳世、峯村リエほか●会場=PLAT主ホール●料金=[全席指定]S席=6,000円/A席=4,500円/B席=3,000円ほか●『白蟻の巣』とのセット券(S席10,500円・枚数限定)あり

6/25 [日] 14:30 開演
平成29年度公共ホール現代ダンス活性化事業
PLATダンスプログラム
鈴木ユキオ「春の祭典」^{ヨイエス}「Yoyesに捧ぐ」

世界40都市を超える地域で活動を展開する鈴木ユキオがプラット初登場。●会員先行=4月9日(日)●一般発売=4月22日(土)●演出=振付=鈴木ユキオ●出演=鈴木ユキオ、安次嶺菜緒●会場=PLATアートスペース●料金=[全席自由・整理番号付]一般2,000円/ユース(24歳以下)1,000円

7/29 [土]・30 [日] 14:30 開演
PLAT小劇場シリーズ
風琴工房
「Penalty killing remix ver.」

とある地方都市をホームとするプロアイスホッケーチームをモデルに、マイナースポーツの厳しい現実と人生を彩る喜びを描いた作品。2015年の初演から取材を重ね、チームの現状を加味した新バージョンをお送りします。●会員先行=4月15日(土)●一般発売=4月29日(土・祝)●脚本・演出=詩森ろば●出演=栗野史浩、森下 亮、筒井俊作ほか●会場=PLATアートスペース●料金=[全席自由・日時指定・整理番号付]一般3,000円ほか●アマヤドリ『非常の階段』とのセット券(一般5,000円・枚数限定)あり

若手音楽家育成事業
プラットワンコインコンサート

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたプラットオリジナルのワンコインコンサートです。500円で60分の贅沢なひとときをお過ごしください。●会場=PLATアートスペース●料金=[全席自由・整理番号付]各回500円

3/8 [水] 11:30 開演 **好評販売中**
Musica Piatto[ムジカ・ピアット]小林美咲(ソプラノ)、杉浦孝治(テノール)、兵藤雅晃(チェロ)、天野初葉(ピアノ)「アンサンブルの調べ〜味わい深い名曲と共に〜」

5/12 [金] 19:00 開演●会員・一般同時発売3月8日(水) 新津くらら
7/1 [土] 15:00 開演●会員・一般同時発売3月8日(水) Trio Katze[トリオ・カツェ]犬塚沙希(ピアノ)、中村真帆(ヴァイオリン)、関根のぞみ(チェロ)

3/20 [月・祝] 10:30~12:30
ぶらっとワークショップ
～身体が発する言葉の世界～ **申込受付中**

ワークショップにあまり参加したことがない方に向けたワークショップシリーズ。今回は自分の身体に向き合いながらジェスチャーを使った簡単な演劇ワークショップを行います。●講師=本田信英(ヨガインストラクター)●会場=PLAT創造活動室B●対象=16歳以上。演劇経験不問。●定員=15名(応募者多数の場合は選考)●参加費=500円●締切=3月10日(金)●申込方法=①プラットチケットセンター電話②劇場ホームページの専用申込フォームより申込

4/15 [土]・16 [日] 13:00~17:00(1日完結型)
平田 満・井上加奈子
表現・発見・体験ワークショップ **申込受付中**

●講師=平田 満、井上加奈子●会場=PLAT創造活動室A●対象=高校生以上で軽い運動のできる方。●定員=20名(応募者多数の場合は選考)●参加費=1,000円●締切=3月3日(金)●申込方法=①申込書に必要事項を記入の上、窓口を持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込

五年目を迎えて

穂の国とよはし芸術劇場PLAT
芸術文化アドバイザー

平田 満

穂の国とよはし芸術劇場PLAT
シニアプロデューサー

中島 晴美

中島——プラットは今年で開館5年目となります。開館日でもある4月30日には、ここまで支えていただいた市民の皆様に感謝の意を込めて、平田さんによるトークや、プラットに縁のある若手演奏家らによるミニコンサートをお届けします。平田さんには準備期間から入れて、6年もの長きにわたり関わっていただき、感慨深いものがあります。平田——拠点という意味合いは出来たんじゃないですかね。確かに、アイプラザ(旧労働福祉会館)や公会堂でも活動は行われていたと思います。しかし、恒常的に演劇をやっているということは、やはり違うじゃないですか。公会堂は、講演会もやれば様々な催し物もやる。労働福祉会館にノ

ると、勤労福祉の会館ですからコンベンションホールの文化的な香りは少なかったですね。中島——プラットは、演劇に特化して始まったんですが、それほど人口の多くない街で、専門的すぎるのはあまりよくない。そういう意味で大ききめに、創造活動室・アトスペース・主ホールと備えていますから、ピアノの発表会や、小さな部屋での講演、仲間うちでリーディングなども出来るんです。習いごととか、お稽古ごとともカーテンを開けているので、何をやっているか、よく分かるんですよ。平田——プラットは専門的になりすぎず、いわゆる拠点というか、センター的でもあるし、音楽も出来るし、交流スクエアでは高校生たちが勉強もし

ている。そういう雑多な人たちが集まるという意義は大きいんじゃないですかね。中島——その辺の許容範囲を少し広げたところが良かったと思います。平田さんは最初から、喜びを感じる劇場にしたいよねと、こだわっていました。それは、こういう世界中が危うい状況の中で、いろんな環境や条件を抱えた人たちが劇場に来たことで知り合い、隣の人と雑談するという空間が、交流スクエアの中に出来た気はするんですよ。平田——そういう雰囲気は、お金をかければ出来るとか、大々的に地元の目を引くようなイベントをやっているんじゃないかと、いわゆる拠点とか、人の集まる場所には、そういう「気」が

あります。その意味では、いい「気」に育っているんじゃないですかね。中島——豊橋の皆さんにとって、何か大きな存在になるような存在にとおっしゃっていましたが、まだ根っこを張ったかどうか分かりませんが、考えてみたら、たまたま平田さんが豊橋出身ということで、とても大変な仕事をしていただきました。豊橋には、主宰のアル☆カンパニー以外での出演を含め、何回も来ていただきました。役者さんにインタビューすると、役者は演出家の求めている通りに役をいただいて演るだけですよという人が多いです。そんな受け身ではないと思うのですが。平田——稽古をして、一つの舞台の2時間な

RECORD

2013



2014



2015



2016



りをスタッフも含めてみんなで、毎日クオリティを損なわずにやっていくというのは大事なことです。与えられた部分だけをやるのならば、責任も軽いし、楽なことですね。しかし、効率は悪いけど、境界を作らず、協力して一見無駄な努力をするのが、舞台芸術や演劇の良さではないでしょうか。また、スタッフやキャストだけのものでもない。舞台の良さは、お客様も含めた劇場の空気も大事な要素です。中島——いい配役が揃っているというは、無駄な人は一人もなくて、役割を十分に発揮出来る環境をお互いが作っていくということが大切なんですね。平田——結局みんながその一員だということです。中島——劇場もある意味、そういう役割じゃないか

なと思うんです。万能で、あれも出来ます、これも出来ますとは言いますが、例えば何でも出来るデッキを買ったとしても、私たちは全部の操作を活かして使うことは、まずないかなと。戻して、録画して、再生するくらい。かといって、それを何度も見るわけではないし、でも、あるときふと見たくなったときに、いつでも見られるように置いてある安心感というか。平田——何か変なところに行っていないか、お客様を置いて行っていないか、一部のみに偏っていないか、逆に迎合し過ぎていないか、つまりは何のためにやっているのか。と、芝居も劇場も、やはり一つの芯は持っていないと難しいですね。常にアピールする必要はないと思いますが、芯がある

とならぬと、大きな違いですね。芸術なんて言うのと大げさだけど、喜びというのは心の動きとか、生きている充実感だと思うんです。それが効率第一になつたり、決められたことをやれといったことになると、自由さがなくなって、そこから新しいものは何も生まれない。生きるのせいぜい80年くらい。僕もその間にちゃんとした活動が何年出来るかわかりませんが、場が与えられたときに、いい雰囲気でもワクワクしたい。プラットもそういう空間であってほしいし、結局は人間が作るものだから、そこに居る人が喜びを持って活動することで、劇場がイキイキとするんじゃないですかね。

中島——それは、やはり伝わってくるもので、なんとなく雰囲気が悪いなと感じてしまうこともありますよね。平田——停滞しているとかね。出ている人にしろ、お客様にしろ、絶対に分かるはずなんですよ。年を取って新しいことは出来なくなっていくけど、人は日々変わっていく。僕も、これから、今まで生きたことのない年齢を生きていくわけです。それを新鮮と思えなくなったら、見る方に回ったり静かな生活をするんじゃないかな。中島——まだまだだと思いますよ。それは、私たちにしても、また、平田さんにとっても、まだ経験したことがない領域の作品をまだまだ見るチャンスがあるということですよ。これからは楽しみですね。

INTERVIEW：1

市民と創造する演劇とよはしの街の物語

「はしっ子」

ドラマトゥルク・木ノ下裕一

豊橋の皆さんが「そうそう」と頷いてくれたならば成功です。

豊橋のみなさん、はじめまして。『はしっ子』で“ドラマトゥルク”を担当しております木ノ下裕一と申します。ドラマトゥルクと、突然云われても、お耳馴染みのない方も多かもしれませんが、平たく言えば、〈演出家の相談役〉です。今回ならば、作・演出・音楽の糸井幸之介さんと作品についてあれこれ語り合い、プランを固めていたり、稽古を見つめながら気づいたことを演出家に伝えたり、創作に必要な資料を集めたり、時には一緒に悩んだりする、そういうお仕事です。企画段階から稽古、そして本番まで、公演というフルマラソンを、演出家と一緒に走りつづける〈伴走者〉でもあります。

今回は「豊橋」を題材にした市民劇ということで、去年から、糸井さんとリサーチをはじめました。二川宿本陣、のんほいパーク(動物園と自然史博物館)、競輪場、牛川人骨出土跡、遠州灘海岸(表浜海岸)、葦毛湿原……昼間は豊橋の街を歩き回り、夜はひたすら作品の構想を練るという濃密な日々を過ごしました。同時に、豊橋の歴史についても縄文から近現代まで、ざっとですが、勉強してみました。正直に告白しますと、この企画に携わるまでは、「豊橋って、たしか愛知県だよ、ね……?」ぐらいの認識しかなかったのですが、知れば知るほど、奥深い土地だということがわかってきました。

日本列島の、竜の落とし子のおへソのあたり、列島のちょうど“中央”に位置する豊橋は、古代から交通の要所として重要な役割を果たしてきました。マンモスや古代人たちの移動にはじまり、のちに関西(京都・大阪)と関東(鎌倉・江戸)を結んだ東海道の宿場町として栄え、現代でも東海道新幹線の間地点の駅としての役割は健在です。多くの旅人を迎えては送る町。交通と物流によって、日本を支え続けてきました。それだけにとどまらず、近代に入ってから軍事、製糸、農業、工業の一大拠点として、ひっそりと、だけれども、確かに、日本という国の暮らしや経済を支え続けてきました。にもかかわらず、日本史では、そのような豊橋をあまり華々しく取り上げません。地理的には“中央”に位置しながらも、正史(中央権力)からは、“はしっこ”の存在として扱われているようにも、よそ者の私たちの目には映りました。

もし、豊橋がしゃべり出したら、何を語るだろうかー。そんな土地の声を聴きながら、作品を作っていくたいなと思います。ある時は、土地の歴史を背負いながら、ある時は、市民の方と対話しながら、そしてある時は、よそ者として街を俯瞰しながら……いずれにしても、豊橋に寄り添いながら、そこで感じたこと考えたことを〈ある家族の物語〉に託していきます。

「そうそう、有史以来、私はそれが云いたかった……」と、“豊橋”が頷いてくれるような作品に仕上がったら、この公演は成功です。

ESSAY



芸術文化アドバイザー

平田 満の ちよこつとエッセイ



第21回「若い人に」

今年、123万人が新成人になるそうです。ふと、自分はそのころ何を考えていたのかな、と思い出してみました。

二十歳のころ、私は一応学生でしたが、授業に身が入らずドロップアウト寸前、芝居の仲間はいましたが友達は少なく、成人式にも出席していません。今から思えば、もともと「何になりたい」とか「これをしたい」とか何もない、いわばモラトリアム青年でした。

既成の体制に組み込まれるのはいやだと思いつつ、政治運動は怖いし、ボランティアは気恥ずかしいし、おしゃれな遊びにはとてもついていけないし、女性にはおどおどしてモテないし、つまり自意識とコンプレックスでがんじがらめになった典型的な田舎者の青年だったのです。

演劇サークルに入ったものの、実際に芝居をしてみたら、あがるし下手だし余計に自信喪失する始末。もうやめようかと相談に行ったとき出会ったのが、劇作家のつかこうへいさんでした。もちろん稽古場でもダメグループで壁の花でしたが、ある時つかさんに全く余裕のないまま前に出され、恥ずかしさで顔は真っ赤、頭は真っ白になって、何とかしなくちゃと焦って我を忘れたとき、思いもよらないキャラクターでめちやくちやなことを言っている自分に気がつきました。稽古場は笑いの渦に包まれていました。そのときなぜかポン、と栓が抜けたように自分の中で固まっていたものが取れ、生まれてはじめての快感と幸福感を感じたのです。あの時の体験がなかったら今、俳優にはなっていないでしょう。

山で何度も死にかけた、登山家で映像作家のジミー・テンという人が、山に登る動機に「一度でも死に近づくと与えられた時間の貴重さがわかり、無為に生きなくなるから」と言っています。切実さでは私とは全くくらべものにはなりません、怖さや恥ずかしさにあえて挑んだ時、忘れられない特別な体験や新たな発見をすることがあります。

若い人に「夢を持って!」とか「大志を抱け!」とは言いません。ちよつと冒険をして貴重な経験をしてほしいなあ、と願います。

私の場合、結局笑われたのを誤解しただけなのでが…。

SUPPORT



知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

有限会社 魚伊
電話52-5256

株式会社 竹尾建築設計事務所
代表取締役 竹尾 誠
豊橋事務所/豊橋市平川南町91-2 千440-0035 Tel.0532-62-1331(代) Fax.0532-62-1332
浜松事務所/浜松市東区流通元町13 千435-0007 Tel.053-422-3628(代)

Gallery 48
呉服町48 TEL.54-4848

グロトリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話053-464-3015

竹内産婦人科
産婦人科 婦人科(不妊治療)
豊橋市新本町23 (豊橋 竹内産婦人科) 電話053-464-3015

内科・消化器科・循環器科・眼科・整形外科・脳神経外科・リハビリテーション科
医療法人 羔羊会 弥生病院
日本医療機能評価機構認定 渡辺のり子(東高2回生)
千441-8106 豊橋市弥生町字東豊和96 電話(大代)48-2211

看板広告 アラキスタヂオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

医療法人 慈豊会
大島整形外科クリニック 院長 大島 毅
東田町井原39の7(市電赤岩口終点前) 電話62-5511(代)

ONOCOM 株式会社 オノコム

株式会社 谷山建築設計事務所
豊橋市西羽田町183 http://taniyama-archi.com

外科・内科・胃腸科・麻酔科・消化器科・呼吸器科
伊藤医院 伊藤之一 伊藤文二
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間
数きく宗
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL.53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱東京UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

御茶屋菓子専門店
若松園
創業江戸

気まぐれコンサート
事務局/0532-62-9259(小川恵司)

安心・安全な地下駐車場
パ・ケ500 ソウの親子の輪が囲む
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
塩之谷整形外科
院長 塩之谷 昌 副院長 塩之谷 香
豊橋市植田町聞取54 電話0532-25-2115(代)

豊橋名産 命あくわ

井上皮フ科クリニック
診療時間 月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00
土 10:00~14:00 休診日=水・日・祝
電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL.46-3281 FAX.46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店
高誠堂
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

本の豊川堂
本店54-6688番/カルミア店55-2810番/アビタ店54-6351番

探物專家
たけな花でん
ココラフロント ホテルアーケリッシュ 1F

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

Storyteller tells the Story
物語コーポレーション

JEANS SHOP YAMATO
豊橋 つつじが丘 / 豊川 千歳通り

生活にファインクオリティ
sala

広告募集

TICKET CENTER



チケットの購入・お問合せ

プラットチケットセンター

電話・窓口
0532-39-3090 [休館日を除く10:00-19:00]
オンライン
http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]



プラットフレンズ募集 入会金・年会費無料

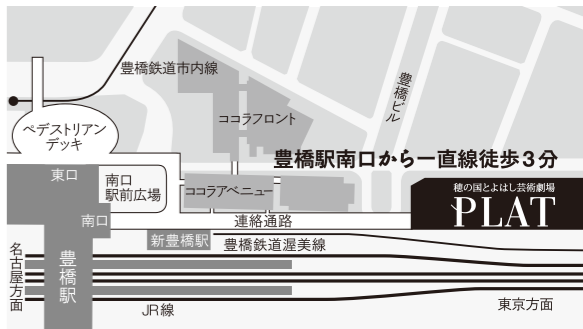
特典
1 公演情報をメールでご案内します。
2 インターネットでチケット予約ができます。
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
※劇場窓口またはホームページからご登録いただけます。

U24・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
料金
U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下:一律1,000円
購入方法
各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
その他
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。



木ノ下裕一[きのした・ゆういち]/木ノ下歌舞伎主宰。1985年7月4日、和歌山市生まれ。小学校3年生の時、上方落語を聞き衝撃を受けると同時に独学で落語を始め、その後、古典芸能への関心を広げつつ現代の舞台芸術を学ぶ。2006年に古典演目上演の演出や補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。代表作に『黒塚』『東海道四谷怪談一通し上演』『三人吉三』『心中天の網島』『義経千本桜一渡海屋・大物浦』など。15年に再演した『三人吉三』にて読売演劇大賞2015年上半期作品賞にノミネートされる。また、16年に上演した『勲進帳』の成果に対して、平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。平成29年度芸術文化特別奨励制度奨励者。その他古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。



千440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話=0532-39-8810[代表]
開館=9:00-22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT